

## 生涯学習部 部長マニフェスト（評価及び検証）

### 重点課題 ①

#### 生涯学習の充実と青少年の健全育成の推進

部分達成

（作成日）平成 25 年 8 月 31 日

（評価日）平成 26 年 1 月 31 日

##### 戦略課題の目標

子どもから高齢者まで、ライフステージや市民ニーズに応じた多様な学習内容や学習環境を整備します。また、学校、家庭、地域との連携による健全育成の環境づくりに取り組みます。

##### セルフレビュー

ライフステージや市民ニーズに応じた多様な学習事業を実施することができましたが、いくつかの青少年講座について、参加者の割合が目標値に達しなかったため、今後工夫していく必要があると考えております。

##### 施策推進上の目標

- ① 市民に様々な生涯学習事業に関する情報を提供するため「生涯学習ニュース」を発行します。
- ② 少子化、核家族化及び地域の人間関係の希薄化等により家庭の教育力の低下が指摘される中、家庭教育を支援する環境を整備し、家庭の教育力向上を図るために「親と子のための教室」・

##### 取組結果・実施状況

- ① 「かしわら生涯学習情報ニュース」を 5 月と 10 月に発行し、生涯学習事業に関する情報を広く市民に提供しました。
- ② 家庭の教育力向上を図るために「親と子のための教室」を 5 公立幼稚園で実施し、「親学習講座」を 6 回開催しました。
- ③ 青少年指導員活動、青少年健全育成会が行う事業の支援を行

「親学習講座」を開催します。

- ③ 青少年指導員活動の円滑化に努めるとともに、各小・中学校区の青少年健全育成会が行う事業の支援を行います。青少年健全育成会が主体となって開催する「通学合宿」を支援します。
- ④ 青少年の感性や社会性を育成するため、学校の授業等で体験できない自然体験や観察など体験型の青少年講座を開設します。
- ⑤ 各小学校区において、1年生から6年生までの全児童を対象に放課後や土曜日に安全・安心に過ごせる居場所づくりとして放課後子ども教室（のびのびルーム）を実施し、遊びや地域の人々との交流を通じて自主性や協調性を育みます。就労等により保護者が昼間家庭に居ない小学校1年生から3年生の児童に対して遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図るため市内全小学校で放課後児童会を開設します。
- ⑥ 「こども 110 番の家」「子どもの安全見守り隊」「学校安全モニター員」など安全確保のための活動を支援します。
- ⑦ 市民文化会館事業は指定管理者とともに市民参加型の文化振興につながる企画をおこないます。

## アウトプット

- ① 「生涯学習ニュース」を年2回(5月10月)発行、各3,500

い、子どもの生きる力の育成と地域コミュニティの醸成を目指した「通学合宿」を、今年は堅上健全育成会と共に開催しました。

- ④ 学校の授業等で体験できない自然体験や観察などが体験できる青少年講座を、今年は「つり入門講座」を6回、昆虫観察講座を3回、星空観察講座を3回、トレッキング入門講座を3回開催しました。
- ⑤ 8小学校区において、1年生から6年生までの全児童を対象にした放課後子ども教室を実施し、放課後や土曜日のこどもの安全・安心な居場所を提供しました。また、就労等により保護者が昼間家庭に居ない小学校1年生から3年生の児童に対して遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図るため市内全小学校で放課後児童会を延べ287日開設しました。
- ⑥ こどもの安全確保の活動支援のため、「こども 110 番の家」「子どもの安全見守り隊」などへの加入者募集の広報活動を支援しました。
- ⑦ 市民文化会館事業は指定管理者とともに市民参加型の文化振興につながる企画を行うと共に、施設の立地条件を活かした大和川学習プログラム（付け替えの歴史解説、水族館による水環境の解説）を実施しました。

## 取組結果・実施状況

- ① 「生涯学習ニュース」を年2回（5月10月に各3,500部）

部。市民への周知がより徹底できるよう、区長会に依頼し回覧板での周知への協力を依頼します。

- ② 「親と子のための教室」の対象に2歳児とその保護者を追加します。
- ③ 堅上小中学校青少年健全育成会が主催する「通学合宿」を支援します。
- ④ 青少年講座の参加者を募集定員の80%を目標とします。
- ⑤ 放課後子ども教室(のびのびルーム)参加者7,500名を目標とします(24年度5,343名)。25年10月1日から放課後児童会の開会時間を18時30分まで延長できるようにします。
- ⑥ 「子どもの安全見守り隊」「学校安全モニター員」等、地域で子どもを育てる環境を醸成します。
- ⑦ 市民の文化芸術活動を奨励する事業を推進。大和川ミニミニ水族館など空きスペースを活用した事業を指定管理者とともにを行います。

発行し、区長会に依頼して回覧板での周知を行った結果、ほぼ全世帯への周知を行うことができました。

- ② 3歳児の親子を対象にした「親と子のための教室」に、2歳児の親子も参加できるようにし、参加者が前年173名から、297名に増えました。
- ③ 堅上小中学校青少年健全育成会と教育委員会が協力して「通学合宿」を実施し、顔と名前の一致する地域コミュニティづくりを目指しました。
- ④ 青少年講座の参加者は募集定員の80%の目標に対し65%でした。
- ⑤ 「放課後児童会」の開会時間を10月1日から、18時30分まで延長できるようにしました。
- ⑥ 広報活動を進めた結果、「こども110番の家」「子どもの安全見守り隊」共に前年を上回る加入者があり、地域で子どもを育てる環境を醸成しました。
- ⑦ 市民文化会館事業では、全館を利用した幅広い自主事業を行った結果、事業数及び利用者数は前年を上回る見込みです。

## アウトカム

- ① 「生涯学習ニュース」を区長会の協力で回覧板での周知ができ、より市民の生涯学習活動の支援ができるようにします。
- ② 放課後児童会の開会時間を18時30分まで延長できるよう

## 取組結果・実施状況

生涯学習に関する情報の提供は広く行えましたが、提供する学習事業については、参加者の少ない事業もあるため、事業内容を検討します。

にすることにより、児童が放課後を安心・安全に過ごせる場を拡充します。

家庭教育について、就学前の幼児を持つ親の子育てに関する不安の軽減させ、家庭の教育力が向上しました。

放課後児童会の開会時間を 18 時 30 分まで延長したり、「こども 110 番の家」「子どもの安全見守り隊」の加入者が増えたことにより、こどもの安全な居場所が充実し、保護者への子育て支援が拡充しました。

(評価日) 平成26年3月19日

#### 行政評価委員の評価

- 市民ニーズを反映させた学習内容や環境整備を行い、さまざまな活動を通じて精力的に取り組まれていることが理解できた。
- こども 110 番の家及び子ども安全見守り隊の加入者が前年度を上回っている記載があるが、定量化すべきである。
- こども 110 番の家及び子ども安全見守り隊の活動状況を定期的に把握されたい。

## 重点課題 ②

# スポーツによるまちの活性化

達成

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

### 戦略課題の目標

- ① 市民の誰もが参加できるスポーツイベントを開催します。
- ② 柏原市をアピールするスポーツイベントの開催を目指します。

### セルフレビュー

新規スポーツイベントを開催し、幼児から高齢者まで多くの参加者を得、初期目標を達成しました。今後も継続してまいります。  
マラソン会場で地域ボランティアによる柏原紹介等ブースを設置し多くの参加者から好評を得ました。今後はブース数を増やし、にぎわいに溢れたイベントを目指します。

### 施策推進上の目標

- ① 「第 1 回スポーツフェスティバル in 柏原」を開催し、スポーツを通じてすべての市民が心身共に健康で豊かな生活を営み、ライフステージに応じたスポーツ活動ができる環境を整備します。
- ② 「柏原シティーキャンパスマラソン」を開催し、既存のスポーツイベントを見直し、広域的な参加を求めスポーツイベントによる「市の発信」を行い市の活性化につなげます。

### 取組結果・実施状況

- ① 9 月 28 日 (土) に従来の市民体育祭に替わる「第 1 回スポーツフェスティバル in 柏原」し幼児から高齢者まで多くの市民の参加を得ました。
- ② 3 月 9 日 (日) に大阪教育大学において、「2014 柏原シティーキャンパスマラソン」を実施。今回より完全オープン化し他市からの参加者も積極的に受け入れ柏原市のアピールを行いました。

## アウトプット

- ① 第1回スポーツフェスティバルin柏原の参加者1,000名(延5,000名)
- ② 柏原シティーキャンパスマラソンの参加者1,000名

## 取組結果・実施状況

- ① 商工まつりと同時開催することにより、普段スポーツに疎遠の市民にも、気軽に参加できる環境を設定したことにより参加者1,194名(延7,514名)を得ました。
- ② 大阪教育大学内のコースはアップダウンがあり非常にきついコースで参加者の減少が懸念されたが、昨年度の参加者に案内状を送付するなど、積極的に周知することにより1,067名の参加者を得、目標値を達成しました。

## アウトカム

- ① スポーツフェスティバルin柏原の参加者にアンケート調査を実施し、次回も参加を希望すると回答した人の割合が50%以上
- ② 柏原シティーキャンパスマラソンの参加者にアンケート調査を実施し、次回も参加を希望すると回答した人の割合が50%以上

## 取組結果・実施状況

- ① 今後、より良い運営を目指すためアンケート収集法にアイデアを凝らせ多くの回答を頂き次回開催希望の参加者割合：99%を得ました。
- ② 今後、より良い運営を目指すためアンケート収集法にアイデアを凝らせ多くの回答を頂き次回開催希望の参加者割合：65%を得ました。

(評価日) 平成26年3月19日

#### 行政評価委員の評価

- 市民の誰もが参加できるスポーツイベントを目指すこの取組は、スポーツを通じてまちの活性化を図るためには有効な取組と考える。
- スポーツイベントへのリピーターを増やすことで、さらなる活性化を期待する。

## 市民の文化活動への支援

部分達成

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

### 戦略課題の目標

市民の文化に対する意識の高揚に努め、学習により習得した知識や技術を地域に還元できる地域社会を目指します。

### セルフレビュー

市民アンケートなどに基づき、新たな公民館講座を設けるなど一定の充実は図られたものと考えております。

### 施策推進上の目標

公民館講座については、より一層内容を改善するとともに、市民文化祭については、より多くの市民の方々が参加できる文化祭を目指します。

### 取組結果・実施状況

- 公民館が実施する講座については、新規講座を開設するなど改善を図りました。
- 市民文化祭については、より多くの市民の方々が参加できるように 10 月 12 日から 20 日まで短期集中型の市民文化祭を実施しました。

### アウトプット

「公民館講座」については、幅広いジャンルの企画に取り組み、市民ニーズに合った講座の開催を行っていきます。また、市民文化祭は、一昨年からの短期集中による開催実績を踏まえ、参加者

### 取組結果・実施状況

- 「公民館講座」については、幅広いジャンルの企画に取り組み、市民ニーズに合った様々な講座を実施しました。まず、語学講座では新しくフランス語講座を開催し、受付初日で定員 15 名に達



の増加傾向にありますが、更に多くの市民が参加できる文化祭になるよう創意工夫します。

する程の人気ぶりでした。また毎年人気の高い韓国語講座や英会話講座も引き続き開催しましたが、この2講座も定員20名に達す程の盛況でした。さらに、新しい機器に入れ替えたパソコン講座は、入門編に加えて、ワードとエクセル講座を新たに開催し、これらの講座も午前・午後各15名の定員を超える人気となりました。

- 市民文化祭は、一昨年からの短期集中による開催実績を踏まえ、更に多くの市民が参加できる文化祭になるようKIホールでも実施しましたが、天候不順等もあり参加者は減となりました。

### アウトカム

公民館講座受講者数を前年度実績（566人）を上回る600人超えを目指します。さらに、市民文化祭の参加者数を前年度実績（17,244人）を上回る18,000人超えを目指します。

### 取組結果・実施状況

- 公民館講座受講者数については、前年度実績（566人）を上回る600人超えを目指しましたが、年度末までの開講予定の見込み数を含むと目標を達成できる予定です。
- 市民文化祭の参加者数については、前年度実績（17,244人）を上回る18,000人超えを目指しておりましたが、文化祭開催中の第2週目に大雨が降り入場者が減り、前年度実績を下回る15,346人となりました。

(評価日) 平成26年3月19日

#### 行政評価委員の評価

- 市民ニーズを汲み取り、講座の充実を図っていることは評価できる。参加者数をアウトプットに設定しその増加を目指すことから、参加者の満足度を高めるよう取り組むべきである。
- 公民館講座の受講者からどのような効果があったかを把握すべきである。
- 幅広い年齢層の市民が講座に参加できるよう、さまざまな講座を企画されることを願う。

## 特色ある図書館運営による地域文化の活性化

部分達成

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

### 戦略課題の目標

図書館を拠点として、読書を通じた知育を目的とした児童サービス及び生涯学習支援としての高齢者向けサービスの充実に努めます。また、郷土資料や地域情報の充実を図り、柏原市の PR をおこないます。

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

### セルフレビュー

児童サービス及び高齢者向けサービスは、息の長い取組が必要で、今年度で開催した行事や本の展示、高齢者向けのみならずニーズの高い図書の選書・提供を行い、より多くの市民の方に図書館に足を運んでもらえるよう努めてまいります。また、カウンターでは柏原市の歴史的に価値の高い史跡や名産品について、数多くのレファレンスがあり、誠実に対応することで柏原を PR していこうと考えております。

### 施策推進上の目標

- ① 読書を通して、楽しみながら学習習慣・知的好奇心の育成ができるような幼児・児童向け行事を企画し、教育機関や家庭に各種メディアを通じて広報することにより、数多くの幼児・児童・保護者の行事への参加と児童サービスの充実を図ります。
- ② 生涯学習の場として、高齢者がより快適に利用できるための図書館案内パンフレットの作成、大活字本や録音図書を充実させ、より多くの高齢者への図書館利用の促進に努めます。

### 取組結果・実施状況

- ① 数多くの行事を開催し、大勢の子どもたちや親御さんに参加してもらい、充実した児童サービスが実施できました。
- ② 大活字本や録音図書は障害をもたれている方だけではなく高齢者の方にも数多く利用していただきました。
- ③ 数多くの方から柏原の産業や歴史についてレファレンスが寄せられ一つ一つに誠実に対応し、少しでも柏原を PR することに努め、また郷土資料も積極的に収集し(仮称) 柏原コーナーの設

置に向けて努力しています。

### アウトプット

平成 24 年度の総貸出冊数は、431,475 冊であり、市民 1 人あたりの貸出冊数は 5.93 冊であります。今年度は貸出冊数を 450,000 冊及び市民 1 人あたりの貸出冊数は 6.25 冊を目指します。

### 取組結果・実施状況

平成 25 年度の 4 月から 12 月までの貸出冊数は柏原・国分両館で 334,470 冊であり前年同時期より 1,949 冊の増で、利用者人数は 2,859 人、予約冊数は 1,492 冊の増です。また、行事も回数を増やし、参加人数も 1,028 人の増です。今年度の目標の貸出冊数 450,000 冊達成に向けて更なる利用拡大を図るよう努めてまいります。

### アウトカム

幼児から高齢者にいたるあらゆる市民に充実した図書館サービスを提供することにより、市民が知的・文化的に潤いのある生活を営むことができるようにします。

### 取組結果・実施状況

今後とも幼児から高齢者にいたるあらゆる市民に図書館サービスを提供することにより、市民が知的・文化的な潤いのある生活を営めるよう尽力してまいります。

(評価日) 平成26年3月19日

### 行政評価委員の評価

- 図書館の利用者が増加していることから、図書館の有用性が高まっていると評価できる。
- 更なる利用対象者を拡大するために、開館時間の拡大を図ることを検討すべきである。
- 市民の交流の場として快適に図書館が利用されるよう工夫することで、地域文化の活性化を図ってはどうか。
- 他市に比べ、図書館事業に投入される予算が少ないように感じる。利用者が増加傾向にあることから、蔵書の充実を図られたい。
- 特色ある図書館運営を目指し精力的に取り組んでいることが評価できる。更なる充実を期待する。

## 文化財の保存と活用

達成

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

### 戦略課題の目標

文化財が大切に守られ、次世代に継承されているまちの実現を目指します。

### セルフレビュー

史跡鳥坂寺跡の保存と活用について基本計画案を作成するなど、柏原市の文化財の保存、活用が図られたものと考えております。引き続き、企画展などを実施し、柏原市の魅力を発信して参ります。

### 施策推進上の目標

- ① 史跡鳥坂寺跡の保存と活用について、専門の研究者による整備検討委員会を中心に引き続き検討を進めるとともに府や国（文化庁）と協議します。
- ② 史跡高井田横穴公園内の公開古墳・高井田山古墳のマルチシエルター（覆い屋）の亚克力板が劣化し透明度が低下しているところから、これを交換するなどの改修を実施します。
- ③ 歴史資料館の企画展を例年どおり、年 4 回開催します。

### 取組結果・実施状況

- ① 史跡鳥坂寺跡の保存と活用について、専門の研究者による委員会「鳥坂寺跡整備検討委員会」（今年度 3 回開催）を中心に検討を進め、府や国（文化庁）とも協議しました。
- ② 史跡高井田横穴公園内の公開古墳・高井田山古墳のマルチシエルターが劣化していたことから、その取換え等の改修を実施しました。
- ③ 歴史資料館の企画展を例年どおり、年 4 回開催しました。

## アウトプット

- ① 鳥坂寺跡整備基本計画（案）を策定し、市長及び教育委員会に提言します。府及び国（文化庁）とも協議しながら、史跡鳥坂寺跡整備に向けての具体的整備方針、基本計画を確定します。
- ② 高井田山古墳を保存しながら、見学に供する等、活用を図ります。
- ③ 企画展の開催を通じて、市民の一般の知的欲求に応じ生涯学習の機会を提供するとともに郷土柏原を内外にPRします。

## アウトカム

- ① 史跡鳥坂寺跡の保存と活用（最終目標は、史跡公園整備）の推進します。
- ② 高井田山古墳の保存・活用と史跡高井田横穴公園の有効活用の推進します。また、全国的に誇ることのできる史跡公園を内外にPRし、市民の郷土への愛着を一層高めます。
- ③ 生涯学習（文化財・郷土史等関連）の推進。歴史資料館の入館者数（年間約2万人）、企画展開催回数（年間4回）等、近隣類似施設に比較して、トップレベルを維持します。

## 取組結果・実施状況

- ① 鳥坂寺跡整備基本計画（案）（第1次案）をとりまとめ、教育長に提言しました。
- ② 高井田山古墳の有効な保存を図ることができました。今後とも保存と見学に供する等の活用の両立を目指していきます。
- ③ 今後も引き続き、企画展の開催を通じて、市民の知的欲求に応じて生涯学習の機会を提供するとともに、郷土柏原を内外にPRしていきます。

## 取組結果・実施状況

- ① 鳥坂寺跡の史跡公園化が進捗しました。
- ② 高井田山古墳を含んだ史跡高井田横穴公園の保存と有効活用をさらに推進することができました。
- ③ 生涯学習を推進され、資料館のレベルが維持できました。

(評価日) 平成26年3月19日

#### 行政評価委員の評価

- 歴史資料館の企画展を開催することにより、どのような成果がもたらされたのか明らかにすべきである。
- 文化財は柏原市をPRするための一つのツールと考える。柏原市が有する特色の更なるPRに努められたい。